

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

中国木材株式会社 郷原工場

(2) 事業所の所在地

広島県呉市郷原町字一ノ松光山626-2

(3) 業種

一般製材業 (No. 1211)

(4) 事業所位置図

別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は平成25(2013)年度を基準年度とし、平成28年(2016)年度から平成33年度までの5年間とする。

3 計画の基本的な方向

1. 基本的な考え方

地球環境の保全を経営の最重要課題という観点で事業を見つめ、「木を活かすために何をすべきか」という理念を基に、常に森林資源を余すところなく活用し、地球温暖化防止については自らの事業活動のみならず、当社の製品を使用する消費者のことも考慮することにより温室効果ガスの排出抑制に努めていきます。

2. 方針

- バイオマス発電などによる森林資源の効率的な活用の促進
- 高効率機器導入による省エネルギーの推進
- 無駄なエネルギー消費の削減
- 廃棄物の排出抑制・リサイクルの推進
- 国産材の有効活用などによる環境保全活動への積極的な参加

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果 ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度	基準年度 平成25年度	直近年度 平成27年度
二酸化炭素	0 (未操業)	12,809	9,613

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果 ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度	基準年度 平成25年度	直近年度 平成27年度
二酸化炭素	0 (未操業)	0	0

【その他温室効果ガス】

温室効果 ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)		
	平成2年度	基準年度 平成25年度	直近年度 平成27年度
メタン	0 (未操業)	1,808	2,696
一酸化二窒素	0 (未操業)	209	252
HFC PFC SF ₆	0 (未操業)	0	0

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 年度)	削減目標		目標年度 (平成 年度)
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)
エネルギー起源CO ₂				
非エネルギー起源CO ₂				
メタン				
一酸化二窒素				
フロン類				
温室効果ガス 実排出量総計				
温室効果ガス みなし排出量				
目標設定の考え方				

※ 削減率(b) = (c)/(a) × 100 削減量(c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標： (b) 原単位数値

エネルギー起源CO₂： 製品生産量 (千m³)

メタン・一酸化二窒素： バイオマスボイラー蒸発量 (千トン)

単位：排出量 (t-CO₂)，原単位数 (t-CO₂/千m³または千トン)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 25 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (平成 33 年度)		
	排出量 (a)	原単位 数値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂	12,809	419.5	30.53	5%	12,169	419.5	29.00
非エネルギー起源CO ₂							
メタン	1,808	304.9	5.93	0%	1,808	304.9	5.93
一酸化二窒素	209	304.9	0.69	0%	209	304.9	0.69
フロン類							
総排出量	14,826						
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)			10.53	3%			10.21
目標設定の考え方	<ul style="list-style-type: none"> エネルギー起源CO₂排出量は年1.0%の削減率 メタン・一酸化二窒素については、木質バイオマス資源をより多く活用するにつれ大幅なエネルギー起源CO₂の削減に寄与する反面、メタン・一酸化二窒素がわずかながらも増加してしまい矛盾が生じるため0%とする。 						

※ 削減率(d) = {(c) - (g)} / (c) × 100 原単位(c) = (a) / (b) 原単位見込(g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組み等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	燃料原単位の削減	燃料原単位を3%以上削減	・バイオマス発電設備の発電量向上によるディーゼル発電稼働率の低減
2	電力原単位の削減	電力原単位を3%以上削減	・バイオマス発電設備の発電量向上 ・高性能インバーター機器への更新 ・高効率照明器具への更新 ・無駄な電力消費の削減
3	上水道の使用量削減	自然水の利用率80%以上	・自然水の有効活用

※ 原単位で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

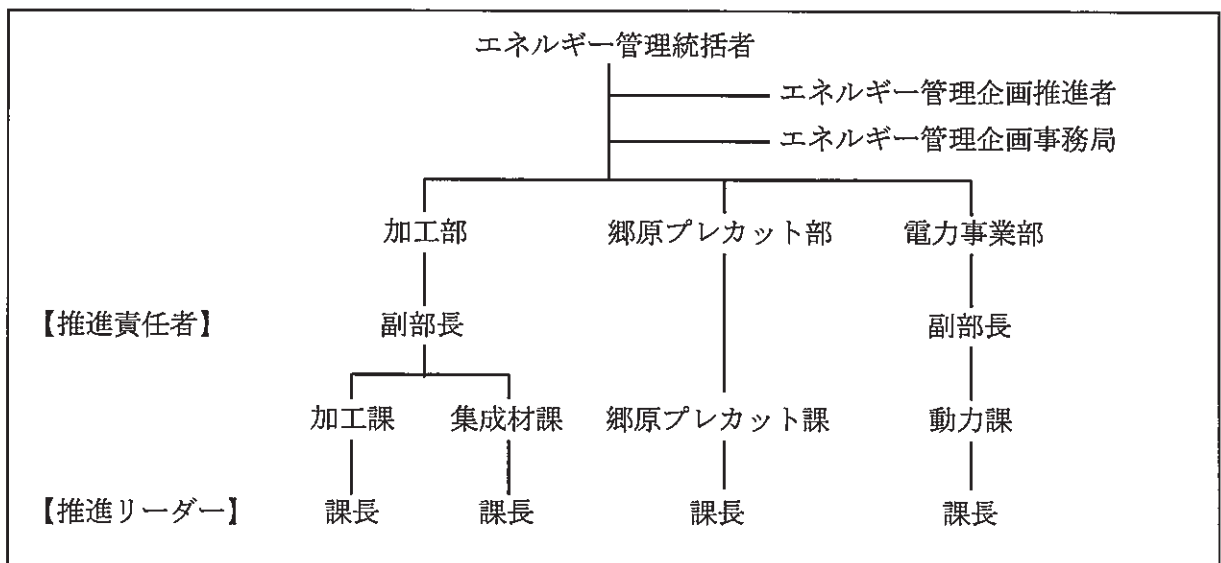
○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	再生可能エネルギー（木質バイオマス）の有効活用	温室効果ガス削減量（全社合計）年間 150,000 t-CO ₂ 以上	高効率バイオマス発電設備（FIT認定）およびバイオマス熱利用ボイラーの新增設を全社規模で展開
2	再生可能エネルギー（太陽光）の有効活用	温室効果ガス削減量（全社合計）年間 5,000 t-CO ₂ 以上	太陽光発電設備（FIT認定）の新增設を全社規模で展開

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

（1）推進・点検体制



(2) 実施状況の点検・評価

エネルギー管理企画事務局を中心として定期的に温室効果ガスの排出状況・原単位の把握を行い問題点の洗い出しや新たな取り組みなどの検討を行う。

(3) 計画書等の公表

当社ホームページ上で公開し常時閲覧可能とする。